

観光とメディアの新たな出会い

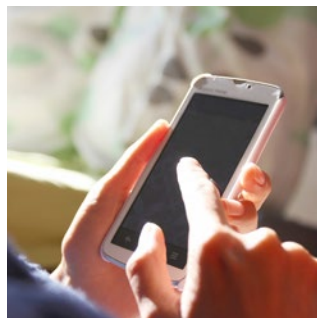
かつて私たちは、旅行ガイドブックや雑誌の挿絵や写真、さらには映画のスクリーンやテレビ画面で観た憧れの景色を確かめるために旅に出ました。また携帯可能なカメラが普及すると、カメラは観光の旅には欠かせないものとなり、旅先で写真を撮って家族や仲間と一緒に楽しむのが近代観光のひとつのスタイルとなりました。このように、近代観光にとってメディアはとても重要な役割を担ってきました。

さて現在に目を転じると、インターネットの普及、特にSNSなど新たなメディアを活用した双方向通信の活発化に伴い、旅の動機や宿泊の形から旅先での楽しみ方まで、私たちの観光のあり方は大きく変化しつつあります。新たなメディア環境の誕生により、いま観光の旅の動機やスタイルはどのように変化しているのでしょうか。観光やメディアを専門とする多彩な講師陣による6回の講義を通じて、現代社会における観光とメディアとの新たな関係について多角的に考えます。

令和元年

9月25日～10月30日
毎週水曜日 18時30分～20時00分

全6回



第1回 (9月25日)

観光、メディアそして拡張現実——ネットと観光をつなぐもの
山田 義裕

第2回 (10月2日)

拡張する観光のまなざし——メディアが作る聖なるもの
岡本 亮輔

第3回 (10月9日)

オンライン・コミュニティによる観光実践——観光が生み出す社会的つながり
山田 義裕(ゲスト: 奈良 雅史)

第4回 (10月16日)

リズムを消費する——ポピュラー音楽が創る観光空間
金成 玫

第5回 (10月23日)

拡張し続ける<物語世界>へダイブせよ——コンテンツツーリスト実践と重層化する世界
山村 高淑

第6回 (10月30日)

見えない都市をたずねて——まち歩きのかたち
清水 賢一郎